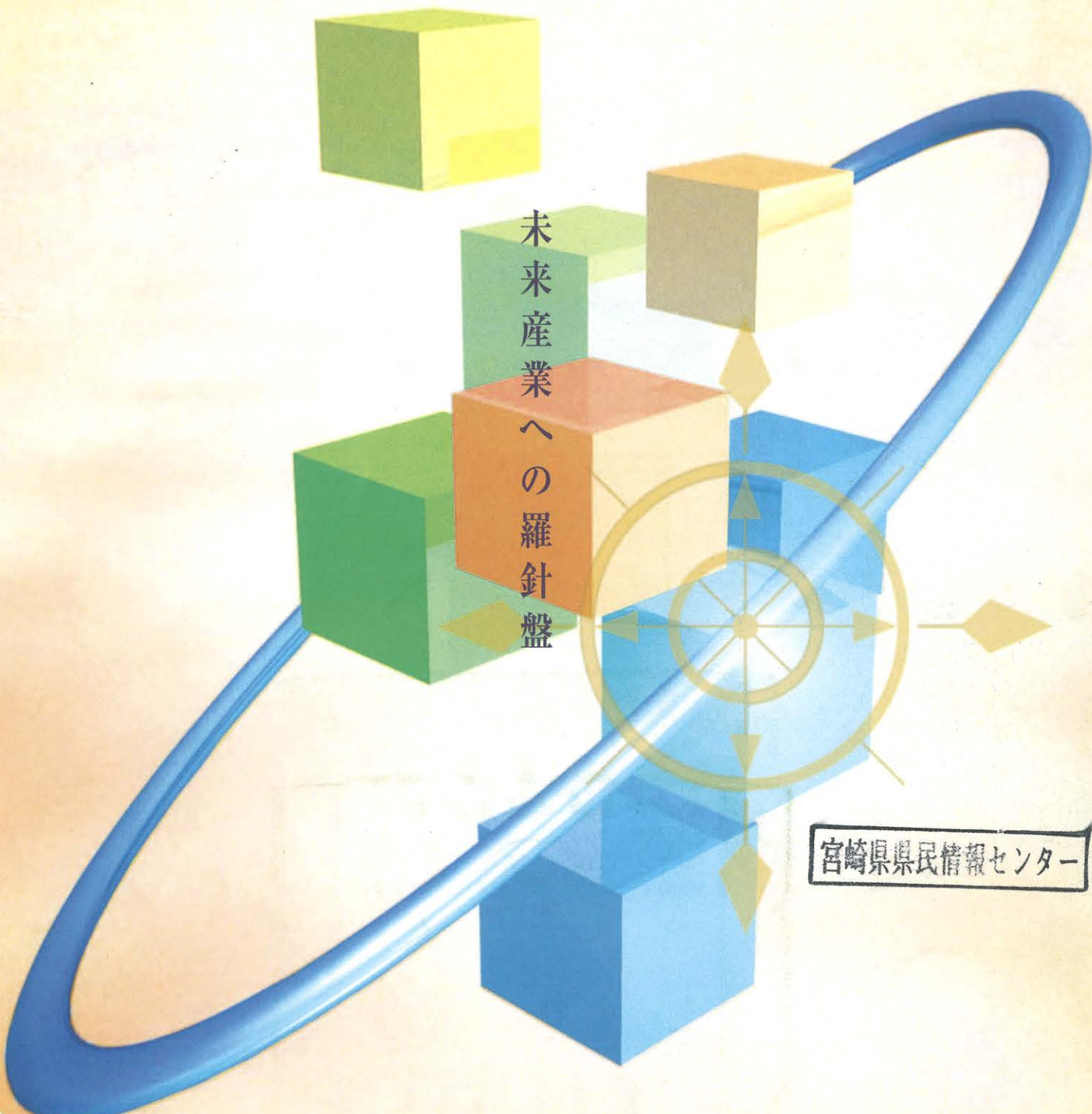


第五次

宮崎県農業・農村振興長期計画

〈概要版〉



宮崎県県民情報センター

宮 崎 県

宮 崎 県
情 報
セ ン タ ー

未来産業への羅針盤

人口、食料、環境問題が21世紀における地球規模での課題とされる中で、農業を「いのちとくらし」を支える食料の安定供給と国土・自然環境の保全を担う『未来産業』と位置付け、今後10年間で未来産業として飛躍するための基礎固めを行います。

〈計画の策定に当たって〉

○計画策定の趣旨

これまでの取組の成果や課題等を踏まえ、21世紀初頭において、次代を担う農業者が誇りと希望を持ち、また、幅広い県民の方々の理解と期待に応えられるよう、本県農業・農村の進むべき道筋とこれを実現するための基本方針等を明らかにしたものです。

○計画の性格と役割

今後の県政運営の基本方針を示す「第五次宮崎県総合長期計画」の農業・農村部門の計画として、県農政の基本指針となるものであり、農業者をはじめ、市町村、農業関係団体等の諸計画や施策の取組の共通指針として積極的に活用されることを期待するものです。

○計画の期間

平成13年度(2001年度)から平成22年度(2010年度)までの10か年計画です。

- 必ず返す期限をまもりましょう。
- この本に目じるしを書きこんだり、折目をつけたり、よごしたりしないように大切に読みましょう。
- 返さないうちにこの本を、他の人に貸すと本がなくなる原因になります。



〈基本構想〉



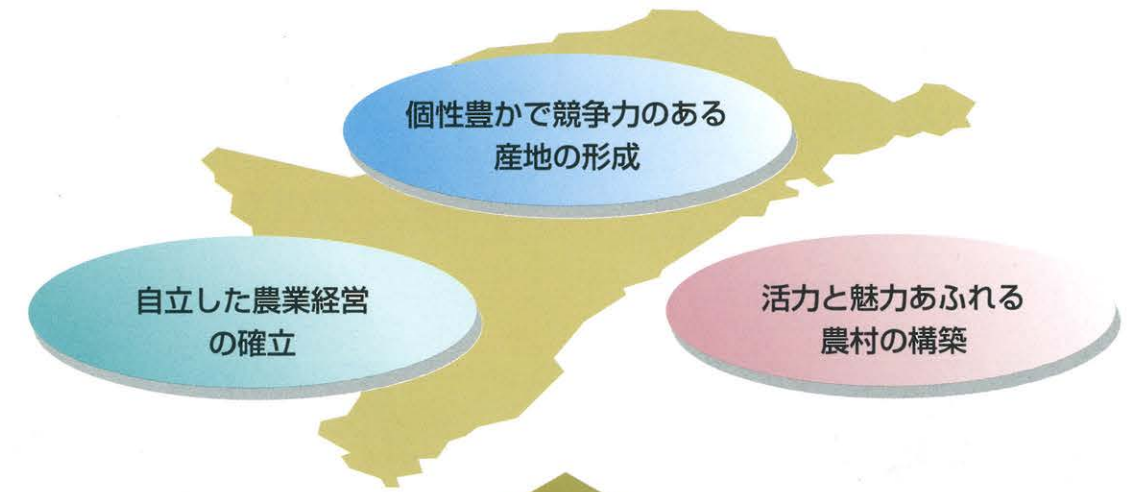
計画の目標

大競争時代を勝ち抜く活力ある農業・農村の創造

21世紀においても、WTO体制のもとで、国内外との厳しい産地間競争が予測される中で、大競争に打ち勝つ活力ある農業・農村の実現が最も重要な課題との認識に立ち、計画の目標として掲げるものです。

目指す将来像

10年後に達成すべき農業・農村のあるべき姿



未来産業に向かう4つの視点

ひとづくりの視点 (改革・自立)

- 経営重視の担い手育成
- 地域マネジメントの強化
- 多様な人材の確保・育成

ものづくりの視点 (創造・挑戦)

- 新技術・情報等を駆使した新たな農業への挑戦
- 新しい生産構造の創出
- 確かなものづくり

環境づくりの視点 (共生・調和)

- 環境に配慮した持続的農業の展開
- 資源循環型農業の確立
- 安全・安心な農産物供給

地域づくりの視点 (連携・交流)

- 生産者と消費者・県民との食や農をテーマとした連携・交流

計画推進の基本姿勢

『プラスワンへの挑戦』の姿勢

～ひとづくり・ものづくり・むらづくりへの新たな挑戦～

『県民総参加』の姿勢

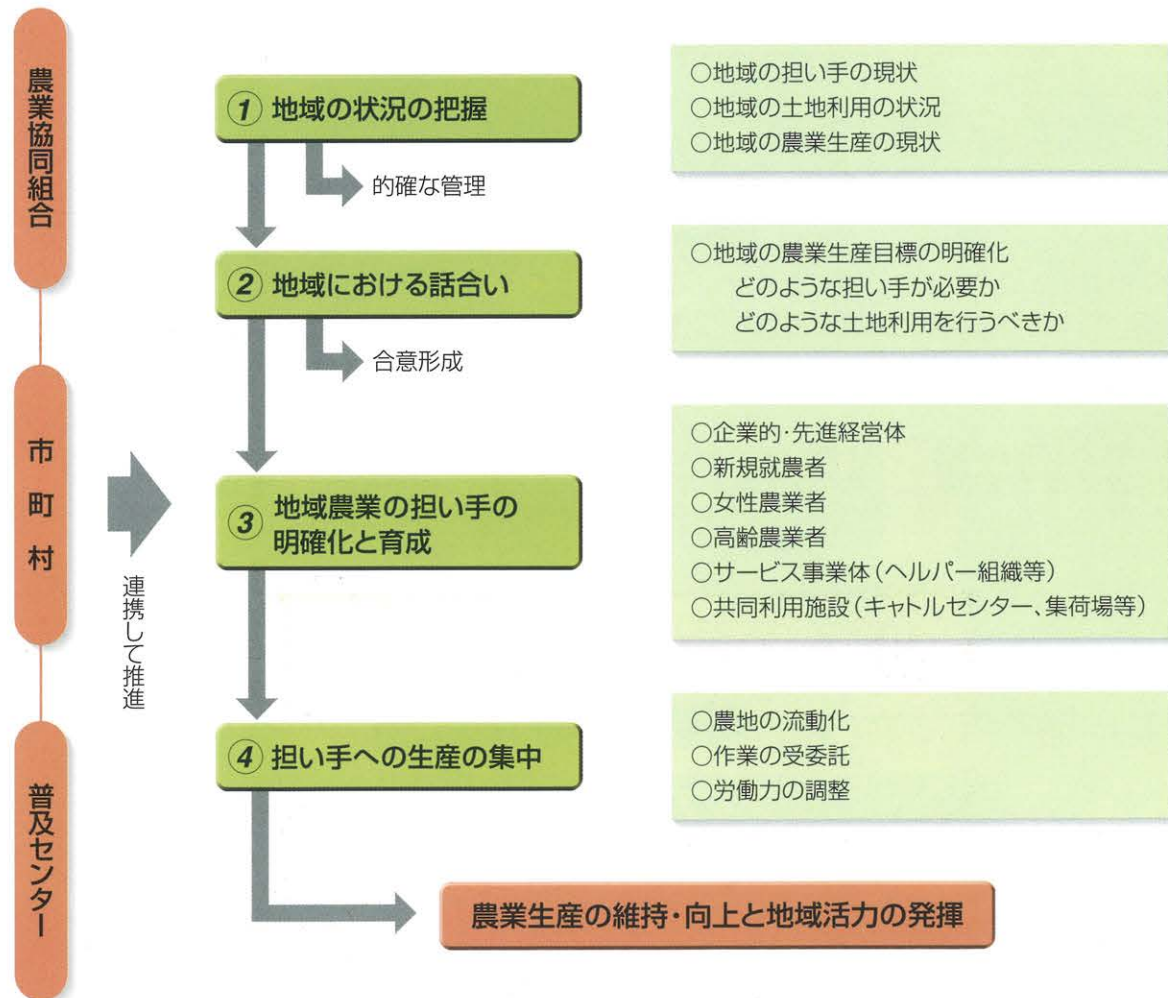
～生産者・消費者がスクラムを組む食農ネットワークの推進～

何かもう一つの新たな付加価値づくりへそれぞれがチャレンジする『プラスワンへの挑戦』と「食と農」の問題を県民とともに考え実践する『県民総参加』を計画実現のための基本姿勢として掲げます。

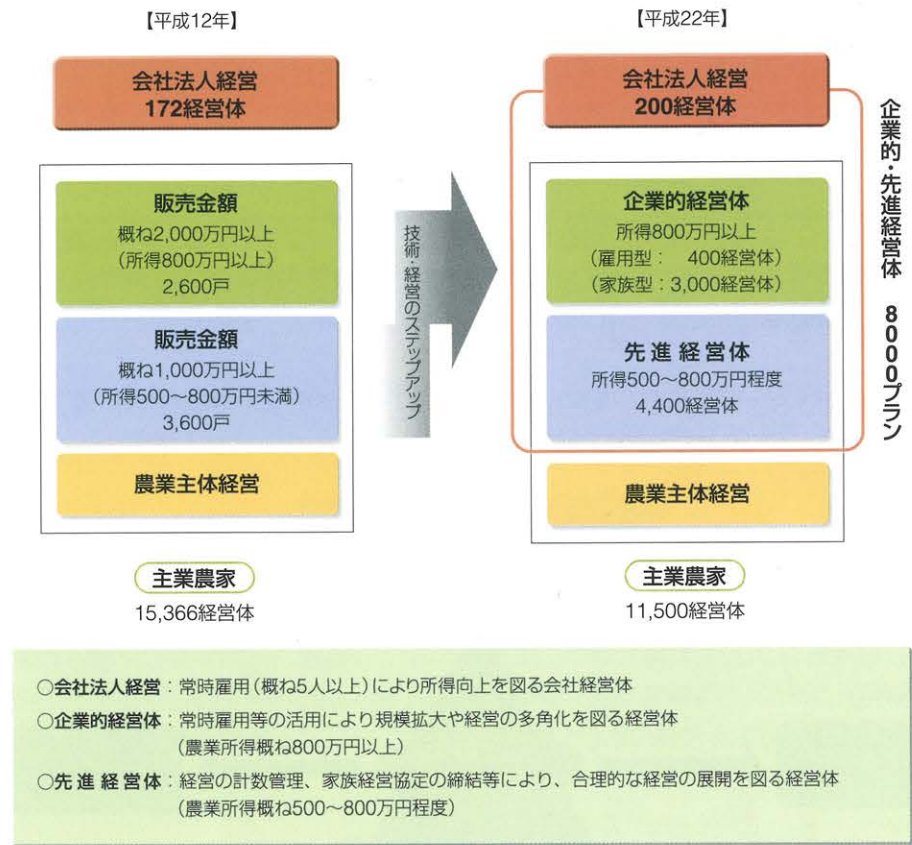
ひとづくり 新時代を切り拓く意欲ある担い手づくり

今後10年間で核となる担い手が大幅に減少することが予測される中で、地域で農業の将来像を考え、土地や技術、資金、情報などを担い手へ集中化することや、地域ぐるみ営農の展開等地域農業の総合マネジメントの取組強化を明確化します。

- 地域農業の将来像を集落ぐるみで話し合い、核となる農業者のほか、高齢者、機械利用組合、共同利用施設（種苗センター・キャトルセンター）等を幅広く将来の担い手として捉え、これらの者に農業生産活動を集中させていく「地域農業マネジメント」の考え方を提案します。
- 特に、農地については、将来の核となる農業者の経営効率を重視し、団地的なまとまりをもった農地として担い手に集中する仕組みづくりとそのための農業委員会や農地保有合理化法人の機能強化に積極的に取り組みます。



- 地域農業の核となる農業経営者の育成については、コスト意識（原価意識）の徹底等を柱に「生産者」から「経営者」への意識改革を進めるとともに、これらの者が農業生産の大宗を担う農業構造を確立します。



- 学卒就農者をはじめ、Uターン就農者、新規参入者など多様な就農希望者に応じて総合的かつ効率的に対応できる就農支援システムを構築し、新たな農業の担い手として意欲と情熱を持った幅広い人材確保に努めます。
- 農業就業人口の半分以上を占める女性の経営参画や社会参画を積極的に促進するとともに、「定年帰農」の条件整備など、高齢者がそれぞれの経験や技術を十分に発揮できる環境づくりを進めます。



農業に夢を描き、熱心に研修する農業実践塾生

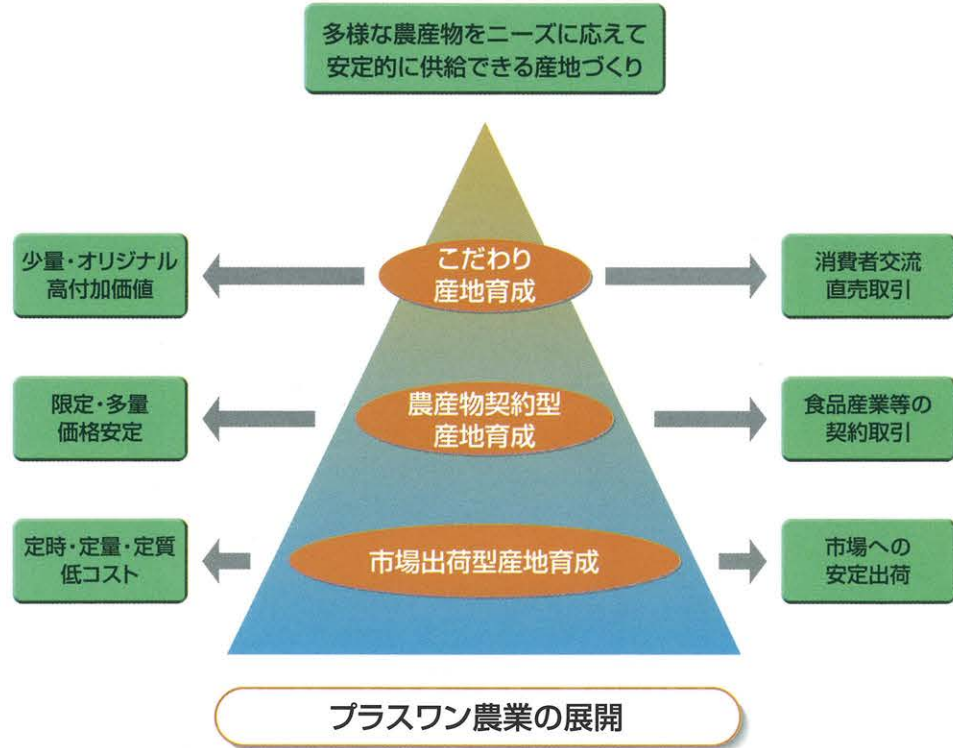


軽量で設備投資が比較的少なく、少ない面積で収益が得られるほおすきなどは、女性、高齢者向けの品目です。

ものづくり 多様性と安定性を備えた総合食料供給基地づくり

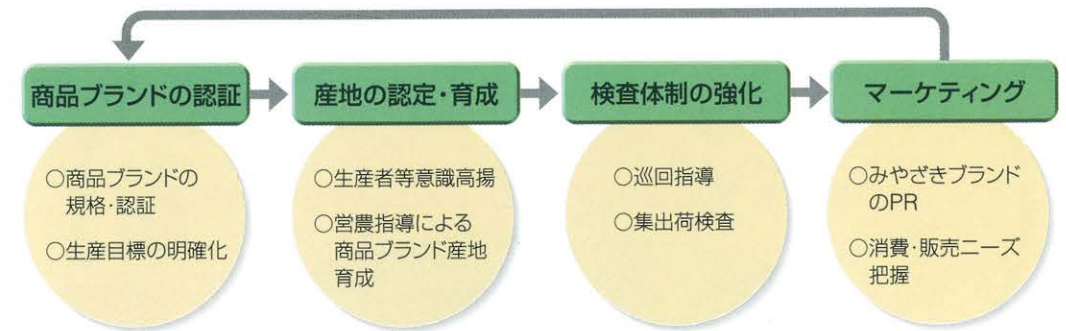
WTO体制のもとで国内外との大競争時代を勝ち抜く対策として、収量・品質・コストの数値目標を可能な限り示すとともに、他産地の一步先を行く高品質で低コストなものづくりと消費者の信頼獲得を実現するため、技術開発、営農指導、産地育成、農産物販売などあらゆる面において、目標に向かって関係者の力を結集します。

- 耕種部門においては、園芸施設の団地化の推進、低コスト・省力化技術の開発・普及、畑地かんがいを活用した大規模畑作の契約栽培産地づくり等輸入農産物に打ち勝つ競争力のある生産構造の構築に向けて積極的な施策展開を図ります。
- 畜産部門においては、家畜排せつ物の適正処理と飼料自給率向上を2本柱に、環境にやさしく安定性の高い「クリーン&グリーン畜産」を推進します。

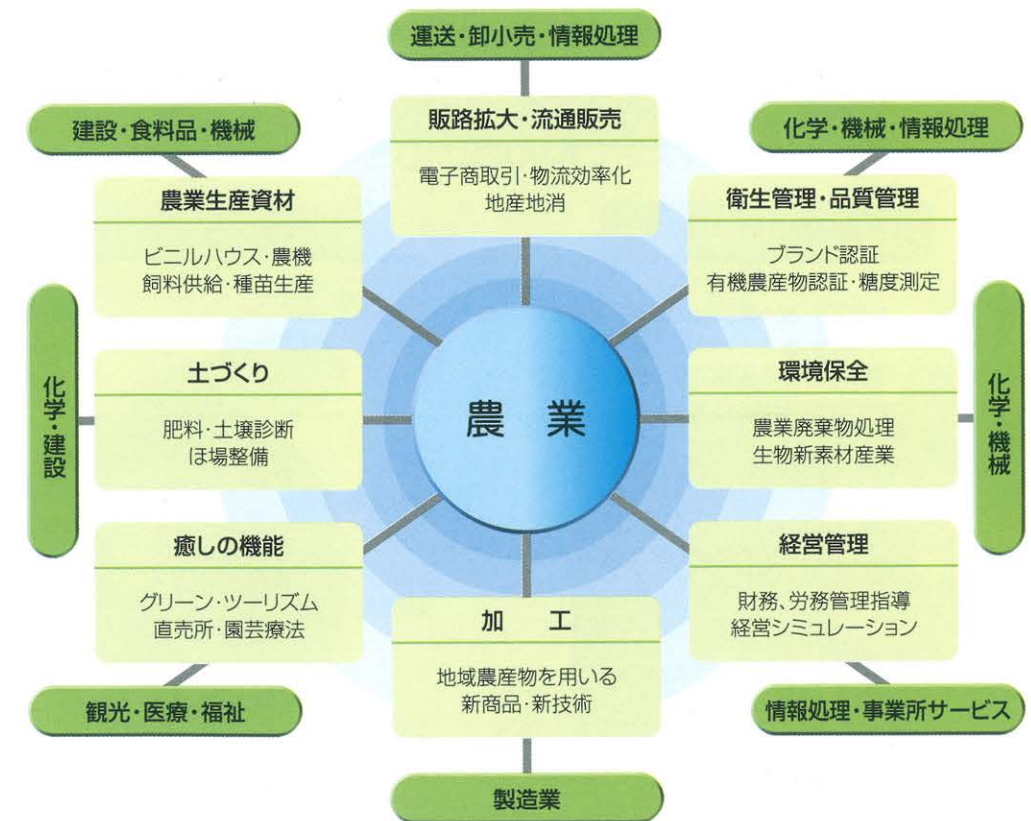


- ブランド確立については、確かなものづくりに立脚した「商品」としての農産物づくりと、これらの「商品」を定時・定量出荷できる体制づくり及びきめ細やかな販売戦略に重点を置き、「商品ブランド認証制度」の創設を軸に、みやざきブランドの新たな展開を図ります。
- 糖度・花持ちなどの品質保証の実施や減農薬など特色ある作り方の普及、消費をリードする女性をターゲットとした戦略商品の開発など、消費者にわかりやすい販売戦略を積極的に進めます。

消費・販売ニーズへの対応や商品自体の価値等による商品ブランドの出荷



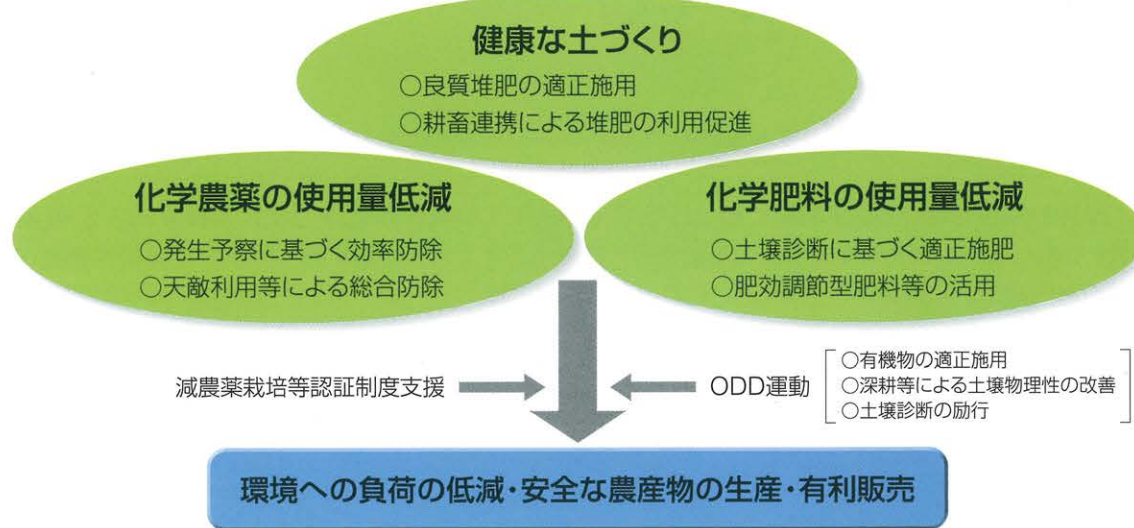
- 農業の生産活動や多面的機能に着目して、ふるさと加工や観光農業、さらには園芸療法など、農業を核としながら2次・3次産業の分野にも積極的に挑戦する考え方を提案するとともに、亜熱帯性植物など宮崎ならではの地域資源を活用し「このことなら宮崎に学べ」といわれるような情報発信、学術拠点づくりを進めます。



環境づくり 環境とともに歩む安全・安心農業づくり

農業が本来有している自然循環機能を最大限に発揮させるため、耕畜連携を基本に、環境にやさしい持続的農業を推進するとともに、安全・安心を消費者に届ける仕組みづくりに積極的に取り組みます。

- 土壌健全化運動(ODD運動)による「健康な土づくり」や「減農薬・減化学肥料栽培」の拡大等を通じて、環境にやさしく消費者に安全・安心をアピールできる持続的農業の展開を図るとともに、「安全性」をテーマとした生産者と消費者の相互理解の推進を図ります。

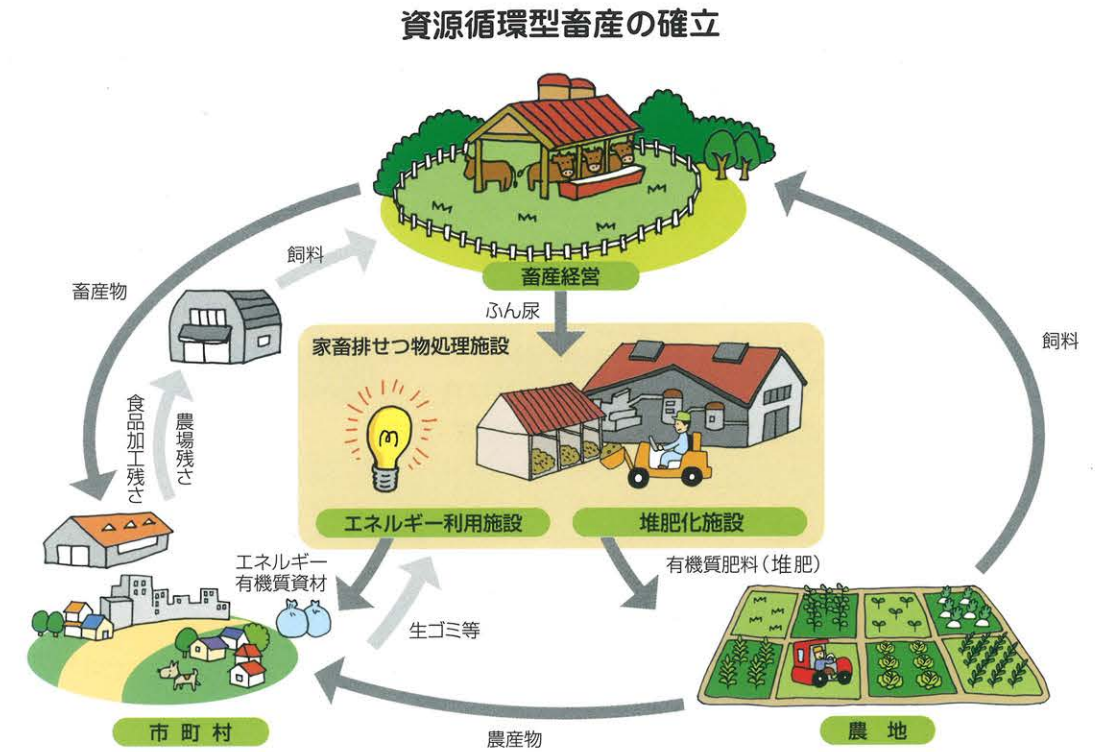


ピーマン栽培における天敵の利用
西都市のOさんは、天敵利用によるピーマン栽培に取り組んでいます。



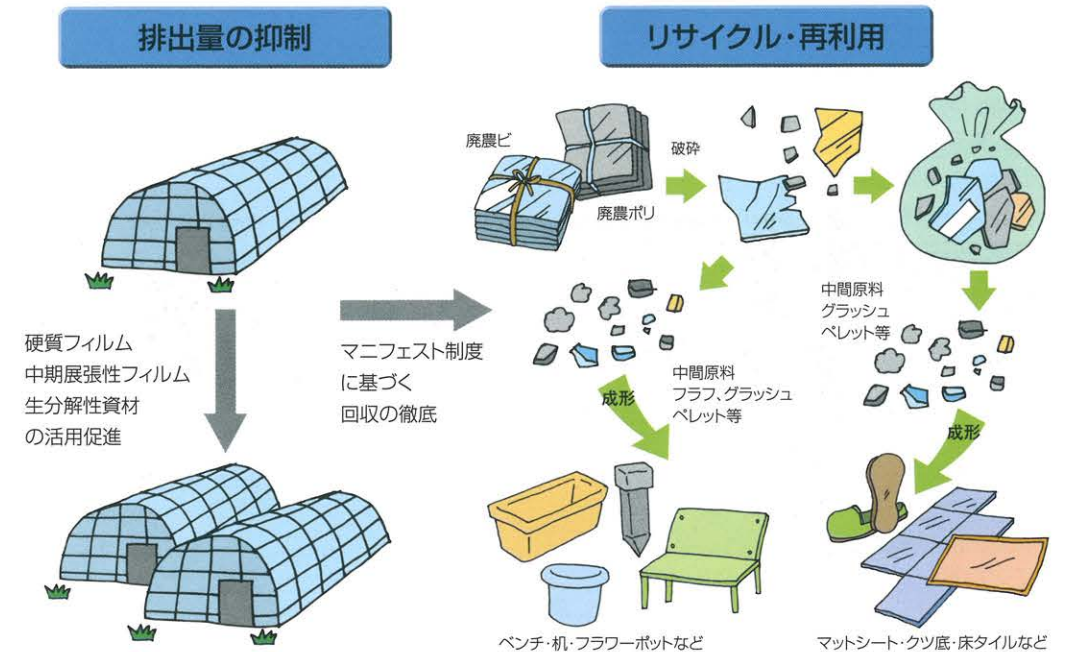
株元にまいた天敵が、スリップスを捕食しています。

- 「家畜排せつ物法」に対応した「野積み」、「素堀り」等不適切な処理の解消を緊急かつ計画的に進めるとともに、「耕畜連携」による良質堆肥の利活用推進など「資源循環型畜産」の確立を図ります。



- 「循環型社会形成推進基本法」を踏まえ、農業用廃プラスチック等農業用廃棄物の排出量の抑制、リサイクル・再利用の推進を図るとともに、食品産業から排出される残さ等について飼料や肥料等への再利用を促進します。

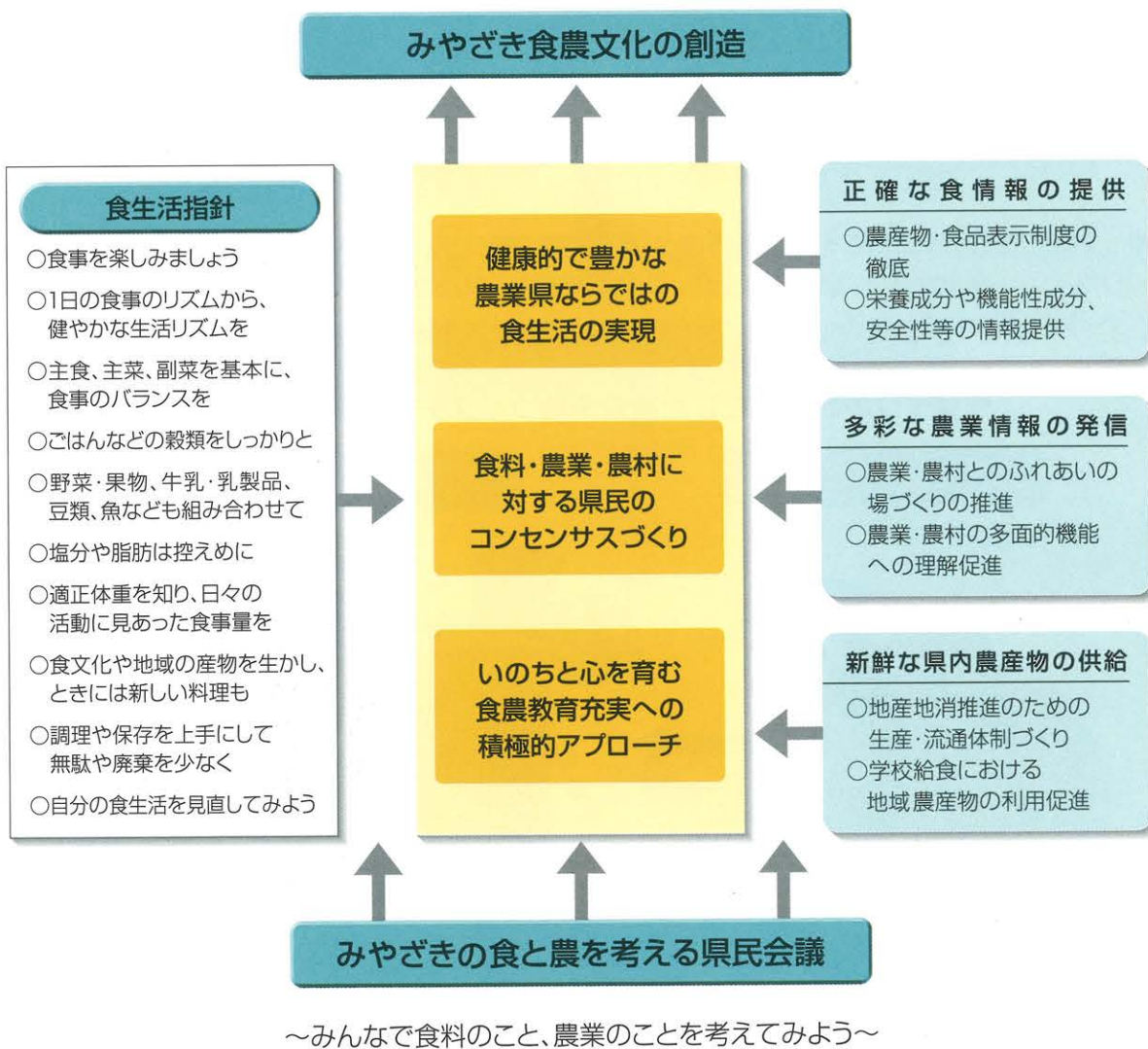
リサイクルを基本とした農業用廃プラスチックの適正処理



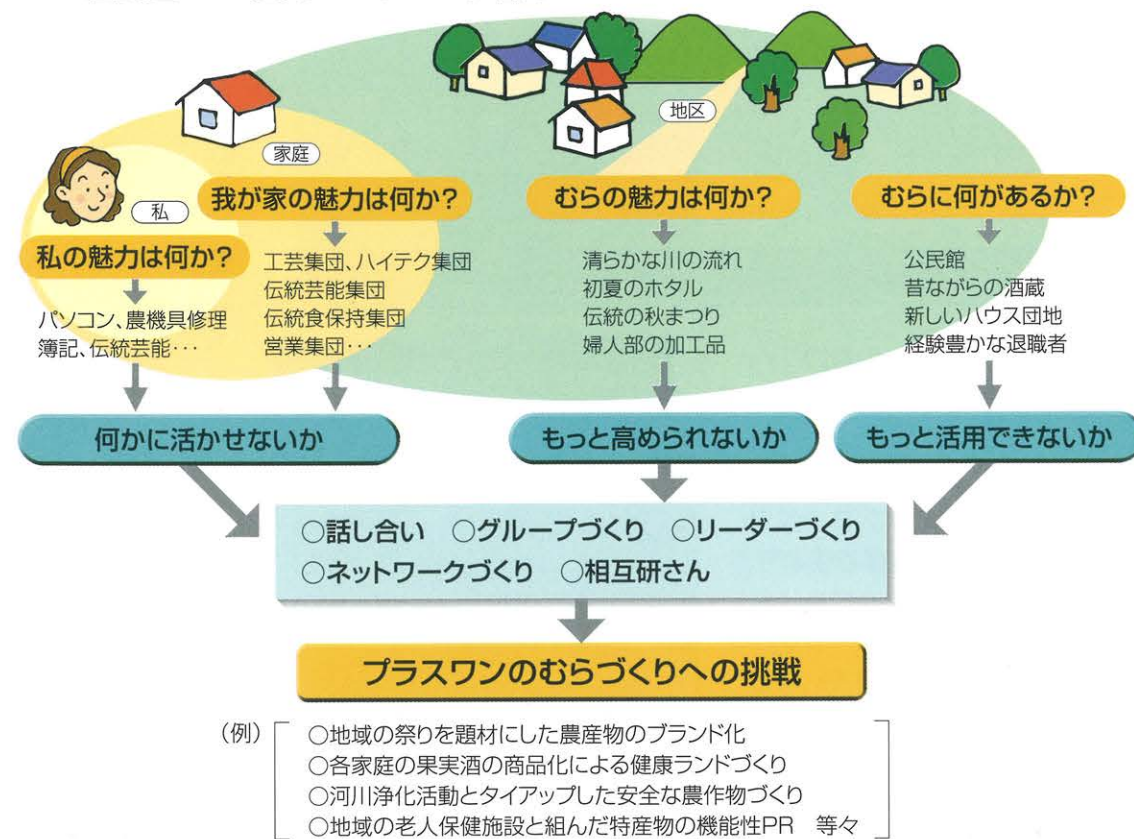
地域づくり 県民に開かれた誇りと活力に満ちた農村づくり

21世紀における「食」の問題や農業・農村が果たしている様々な役割について、県民が一体となって考えていく姿勢を打ち出すとともに、美しい農村景観、豊かな自然、伝統文化など、住民自らが地域の良さを再発見し、それを地域の誇りとして育んでいく活動を「プラスワンのむらづくり」として提唱します。

- 「みやざきの食と農を考える県民会議」を創設し、「食生活指針」の普及・定着、「いのちと心を育む食農教育」の充実、地元で出来たものを地元で消費する「地産地消」の推進などにより、宮崎ならではの「食農文化づくり」を推進するとともに、健康的な食生活と食料の安定供給、農業・農村の持つ多面的機能について県民総ぐるみで考える運動を展開します。



住民自らの魅力を「もう一步」高めることによるむらづくりへの挑戦



- ワーキング・ホリデーや棚田オーナー制度など地域の魅力を引き出す多彩なプログラムの充実により、「心のやすらぎ」と「いやし」をテーマとした都市農村交流やグリーン・ツーリズムの一層の普及・定着化を推進します。
- 中山間地域の経済を支える農業と林業が力を合わせ、流域が一体となった取組を進めるなど「国土保全奨励制度」の一層の推進を図るとともに、「中山間地域等直接支払制度」など新たな対策も活用しながら、中山間地域の活性化を図ります。

西米良村のワーキング・ホリデー制度



柚の皮むきやほおすきの管理などの農作業を行いながら、村に1週間程度滞在する新しい観光です。体験者の中から村に定住する人も出てきており、ユニークな取組として注目されています。



(北方町唐立地区)美しい棚田は県民の財産です

〈地域構想〉

本県は、平地から中間畑地帯、山間地域に至る多様で豊かな立地条件を有しており、それぞれの地域がその特徴を生かした個性ある発展を目指すことが必要であることから、支庁・各農林振興局の所轄区域にあわせて7つの地域を設定し、人づくりや産地づくりなどについて、地域の特性や課題に応じた地域振興方策を示します。

地域で支え、地域を生かす中山間の農業・農村

- 個性が光る多様な担い手の育成
- 地域の特性を生かした質の高い産地づくり
- たすけあい、ふれあいのある快適な農村づくり
- 自然と環境に配慮した生産基盤の整備



自然掛け干し米

夢ふくらむ霧島山麓農業の新たな展開 —恵まれた自然と英知を生かして—

- 立体園芸産地づくり(野菜、花き、果樹)
- 肉用牛生産基盤の確立
- 資源循環型農業の確立
- 総合支援体制の整備による土地利用型農業の再構築
- 畑地かんがい営農の推進



宮崎牛低コストモデル牛舎(野尻町)

水と有機を母体に知恵と勇気で築く盆地農業

- 多様な担い手の確保と農地利用の集積による地域営農体制づくり
- 水と堆肥を活用した環境にやさしい産地づくり
- 住みやすく活気あふれる農村づくり



畑地かんがい用水による営農

地域の人と自然を生かした多様な担い手の支える農村づくり



西郷村の御田祭

- 認定農業者、兼業農家等多様な担い手の連携による農業経営の確立
- 標高差等地域特性を生かした多彩な農業の確立
- 環境に配慮し、地域に応じた生産性の高い基盤整備
- 歴史と伝統を生かした活力ある農村づくり

多彩な農業生産による調和のとれた食料供給基地



施設園芸を支えるハウス群(西都市)

- 企業的農業経営体の育成と第三セクター等の地域営農支援体制の整備
- 消費者ニーズに対応した推進品目ごとの安定生産・流通・販売体制の整備
- 環境と調和した資源循環型農業の確立
- 担い手の育成と連動した生産基盤の整備と土地改良施設の適正な維持管理
- グリーン・ツーリズム等の推進による都市と農村の交流促進

21世紀をリードし消費者とともに育てる都市近郊型農業



トルコギキョウの栽培

- 多様な担い手の育成・確保による中部地域農業の推進
- 全国トップレベルの施設園芸・畑作物・肉用牛の振興と支援対策の充実
- 畑地かんがい施設等の生産基盤の整備による高収益農業の確立
- 環境と調和した地域循環体系の構築と持続的農業の推進
- 消費者とともに育てる中部地域農業の推進

あふれる光で切り拓く豊かな地域農業の展開を目指して

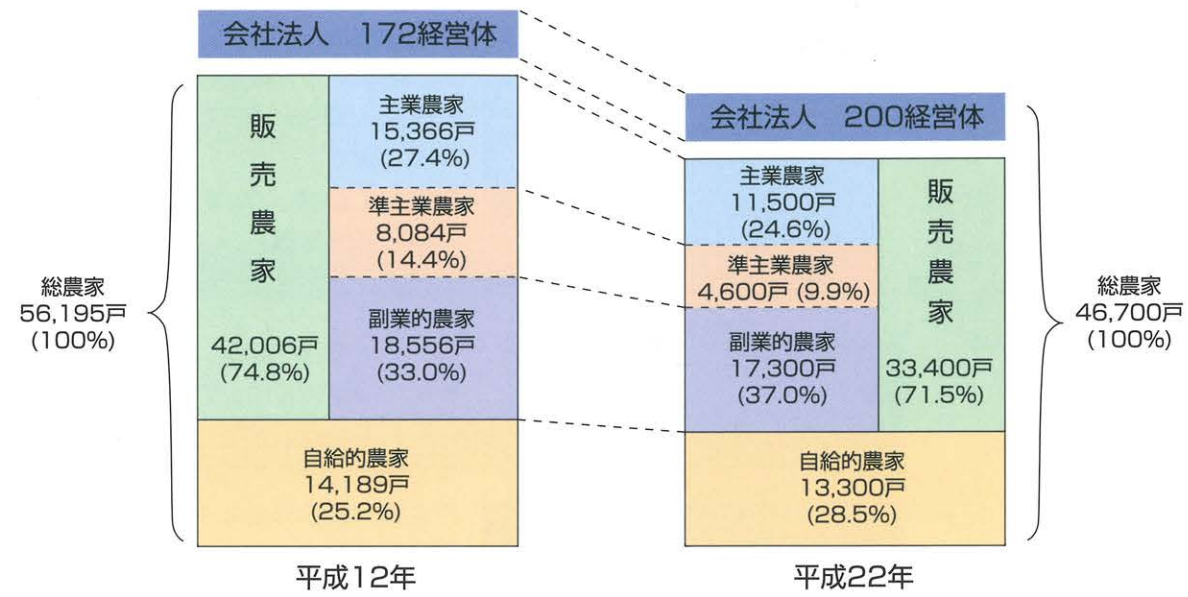


南郷町の贅波亜熱帯果樹組合

- 多様な担い手の育成と地域営農の推進
- 地域特性を生かした農畜産物の安定生産と産地の育成
- 地域の実情に即した基盤の整備と持続性の高い農業の実現
- 快適な生活空間の創出と農村の資源を生かした地域づくり

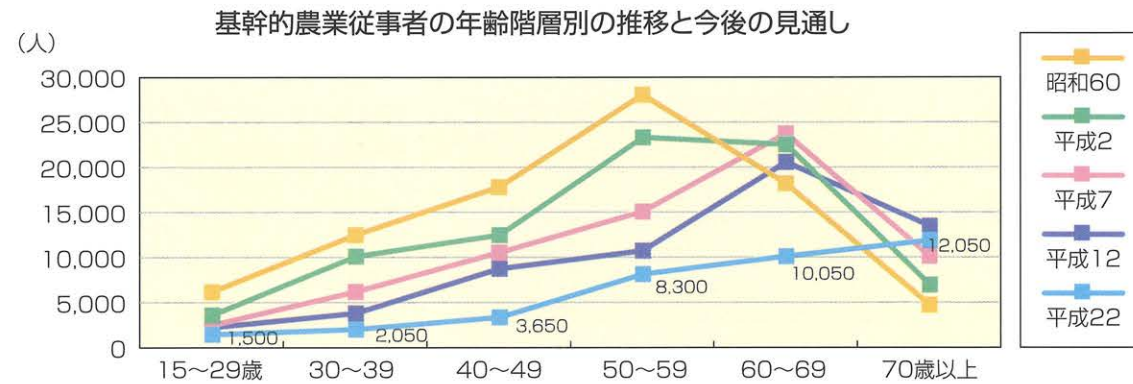
〈主要指標〉

○農家数の見通し



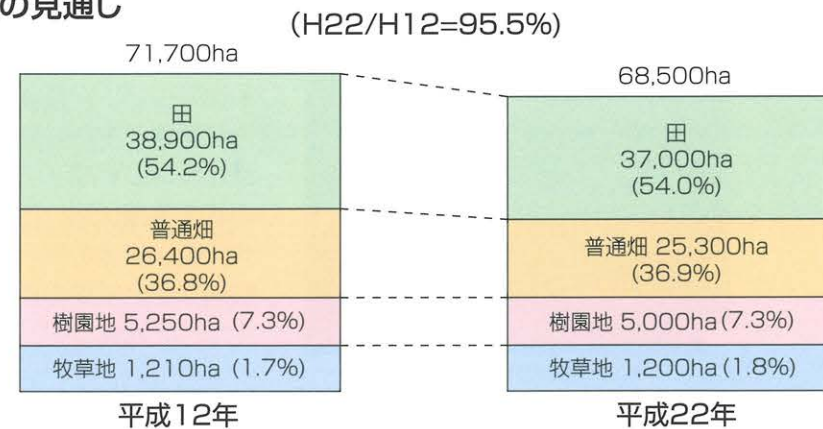
販売農家：経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家
 主業農家：農業所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家
 準主業農家：農外所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家
 副業的農家：65歳未満の農業従事60日以上の方がいない農家

○農業労働力の見通し



基幹的農業従事者：普段主に仕事をしている者のうち、農業に主として従事する者

○耕地面積の見通し



○農業粗生産額の見通し

(単位:億円、%)

	現状 (平成11年)	目標 (平成22年)	伸び率 (22年/11年)	平成11年の 全国順位
米	260 (8)	315 (9)	121	31
野菜・いも類	678 (22)	800 (22)	118	12
果実	123 (4)	152 (4)	123	22
花き	123 (4)	187 (5)	152	11
工芸農作物	179 (6)	233 (6)	130	6
耕種計	1,391 (45)	1,726 (48)	124	20
肉用牛	486 (16)	568 (16)	117	3
乳用牛	117 (4)	133 (4)	114	17
豚	453 (15)	480 (13)	106	2
鶏	597 (19)	616 (17)	103	3
畜産計	1,658 (53)	1,804 (50)	109	3
加工農産物	49 (2)	70 (2)	143	5
県合計	3,098 (100)	3,600 (100)	116	8

注)表中の()内は、部門別の構成比(%)。

○農業生産の見通し

(単位:ha、%)

	現状 (平成11年)	目標 (平成22年)	伸び率 (22年/11年)	
作付面積	稲	23,400	23,500	100
	野菜・いも類	14,186	14,100	99
	果樹	4,150	3,560	86
	花き	1,235	1,450	117
	工芸農作物	3,940	4,750	121
	飼料作物	31,940	37,400	117
	計	82,200	88,000	107
飼養頭数	肉用牛(千頭)	245.4	292.0	119
	乳用牛(千頭)	24.2	24.0	99
	豚(千頭)	771.0	790.0	103
	採卵鶏(千羽)	5,786	6,000	104
	ブロイラー(千羽)	17,462	18,000	103



〈発行〉

宮崎県農政水産部農政企画課

〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号 TEL.0985-26-7123 FAX.0985-26-7307
宮崎県庁ホームページアドレス <http://www.pref.miyazaki.jp/>

宮崎
県民
セン